

# 事業者ヒアリングの実施結果

## 1 事業者アンケート

### 1-1 調査の概要

調査対象	尾張旭青年会議所、尾張旭市商工会の会員（約1,270者）
調査期間	令和4年6月3日～令和4年6月19日
配布方法	尾張旭市商工会を通じて配布など
回収方法	紙媒体の調査票に回答を記入し、ファクシミリで回収 もしくは、調査票に記載された二次元バーコードのリンク先であるアンケート調査票サイトから回答を入力
調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>● 回答者属性<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 業種, 従業員数（非正規を含む）</li></ul></li><li>● 現在取り組んでいるまちづくり活動</li><li>● 今後のまちづくりへの関わり方</li><li>● まちづくりに参画する場合に必要な市の支援</li><li>● 10年後にどのようなまちになっているとよいか</li><li>● 尾張旭市の将来をイメージする『言葉』や『キャッチフレーズ』</li><li>● 将来のまちづくりに対するご意見等</li><li>● ワークショップへの参加希望<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 参加希望者の氏名・性別・年齢・住所等を把握</li></ul></li></ul>
配布・回収数	配布数 1,270通 回収数 89（回収率 7.0%）

※ SAは単一回答、MAは複数回答、NAは数量回答、FAは記述回答の設問を表す。

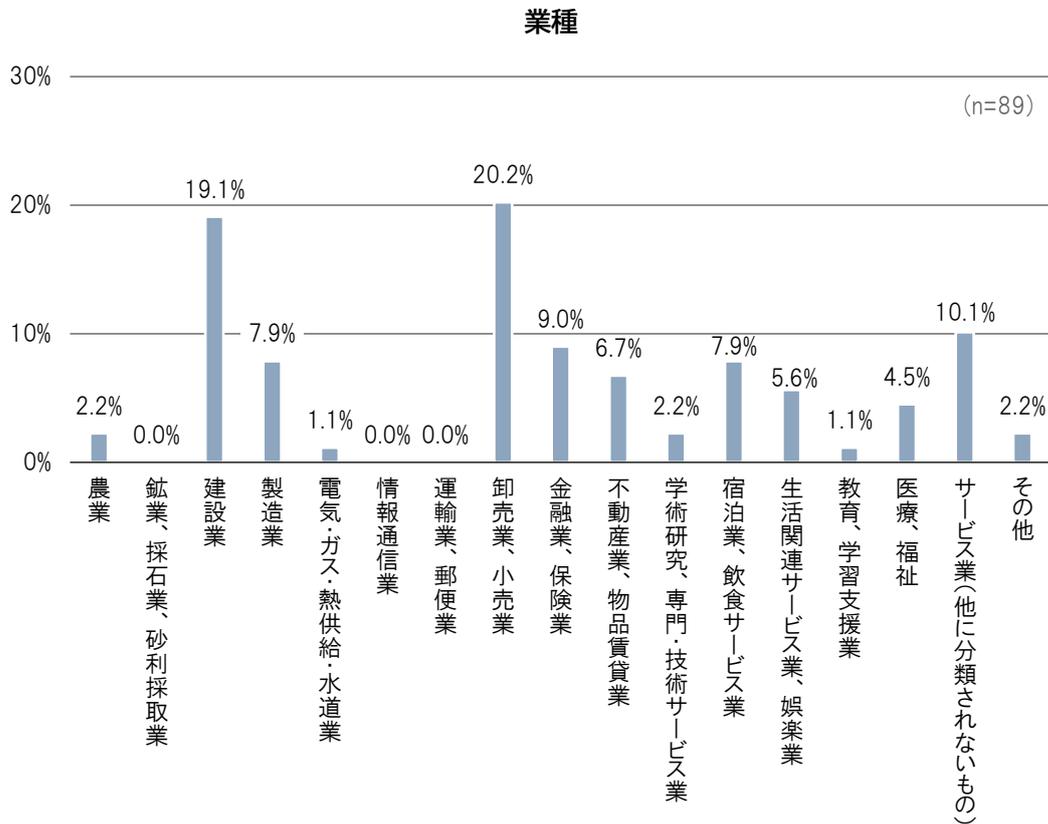
※ 図中にあるnは、その設問の回答者数（サンプル数）を表す。

※ 回答結果について、選択形式の設問は百分率で集計しているが、少数第2位を四捨五入しているため、全ての選択肢の百分率の合計が100%にならない場合がある。

## 1-2 調査結果

### (1) 業種 (SA)

「卸売業、小売業」の割合が最も高く20.2%となっている。次いで、「建設業(19.1%)」、「サービス業(他に分類されないもの)(10.1%)」となっている。

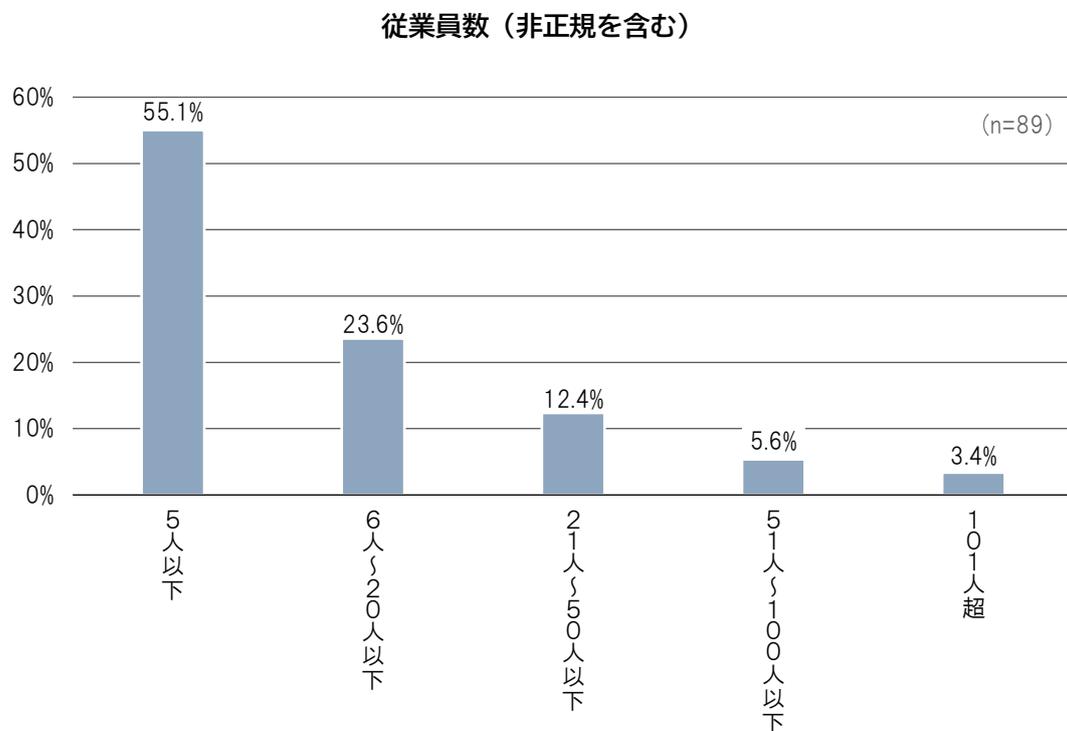


### その他の回答

- 電気通信事業
- 理容業

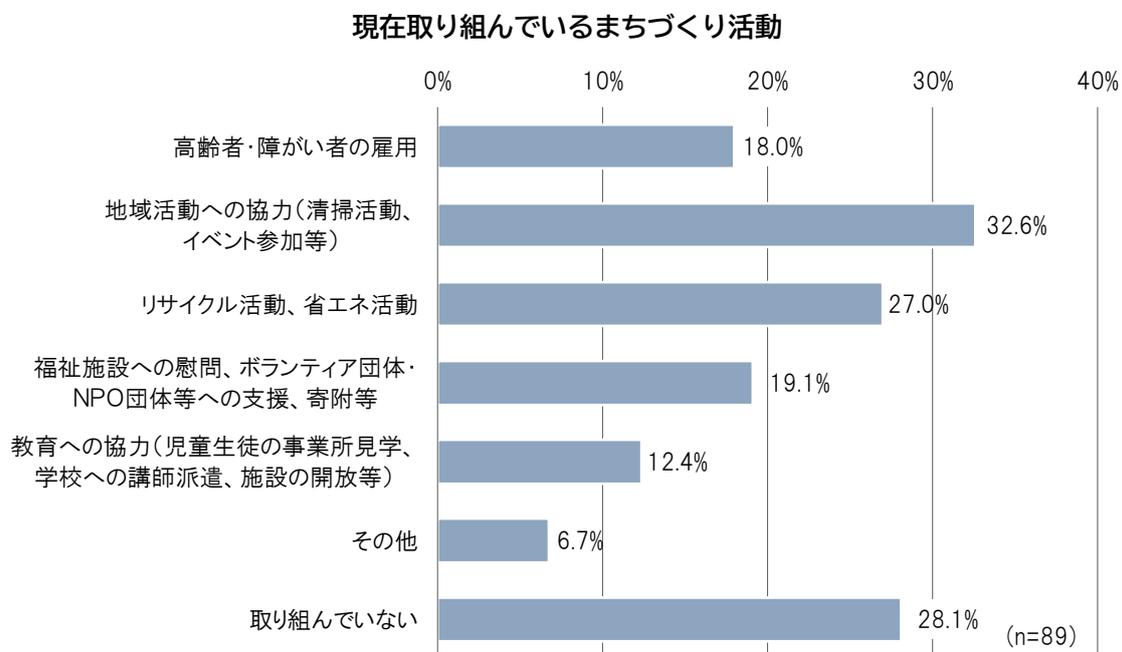
(2) 従業員数（非正規を含む）（SA）

「5人以下」の割合が最も高く55.1%となっている。次いで、「6人～20人以下（23.6%）」、「21人～50人以下（12.4%）」となっている。



### (3) 現在取り組んでいるまちづくり活動 (MA)

「地域活動への協力(清掃活動、イベント参加等)」の割合が最も高く32.6%となっている。次いで、「取り組んでいない(28.1%)」、「リサイクル活動、省エネ活動(27.0%)」となっている。



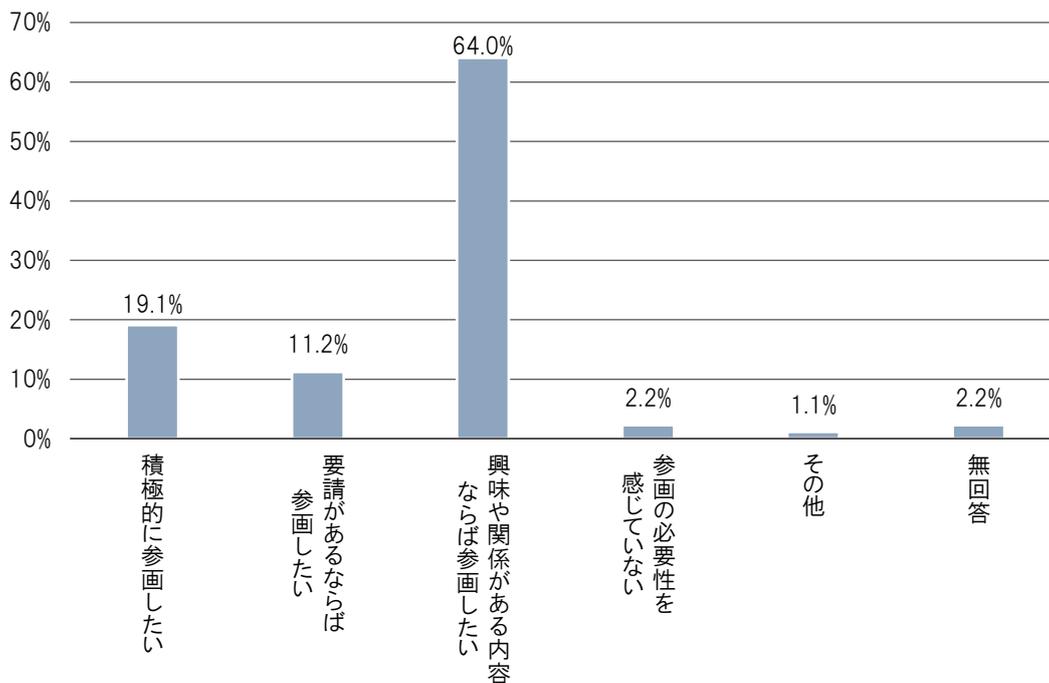
#### その他の回答

- 商工会や地域団体に属しての活動
- 健康診断推進
- 健康経営支援
- SDGs
- 訪問美容
- 特産品認定
- 高齢者交通安全サポーター

#### (4) 今後のまちづくりへの関わり方 (SA)

「興味や関係がある内容ならば参画したい」の割合が最も高く64.0%となっている。次いで、「積極的に参画したい(19.1%)」、「要請があるならば参画したい(11.2%)」となっている。

図表 今後のまちづくりへの関わり方

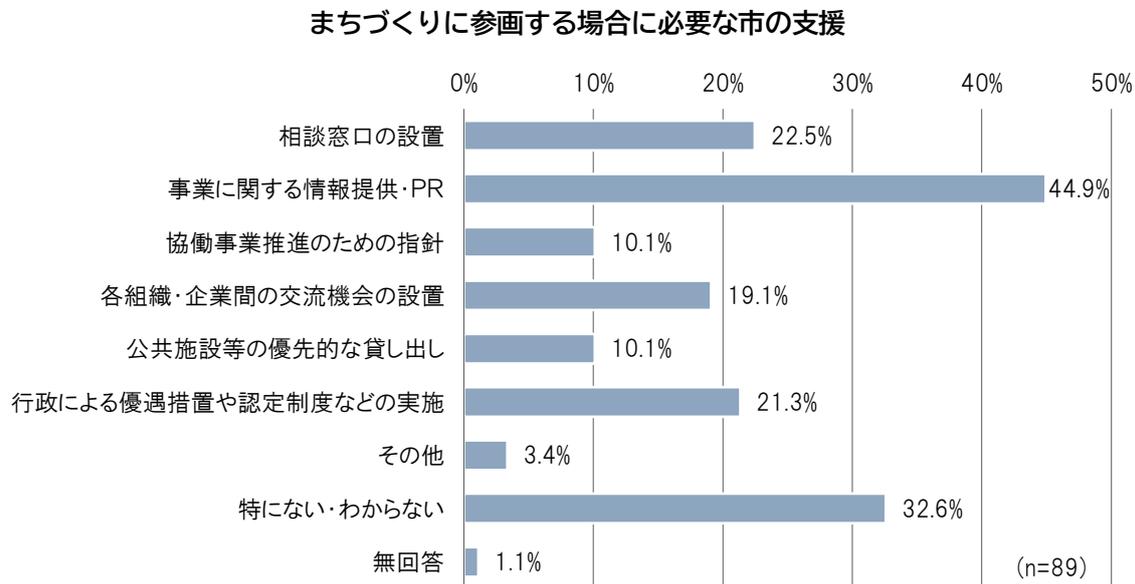


#### その他の回答

- 市の対応により

(5) まちづくりに参画する場合に必要な市の支援 (MA)

「事業に関する情報提供・PR」の割合が最も高く44.9%となっている。次いで、「特にな  
い・わからない(32.6%)」、「相談窓口の設置(22.5%)」となっている。



その他の回答

- 行政によるやる気
- 里山の保全

<現在取り組んでいるまちづくり事業×まちづくりに参画する場合に必要な市の支援事項>

事業者が「現在取り組んでいるまちづくり事業」別に「まちづくりに参画する場合に必要な市の支援事項」をみると、「取り組んでいない」を除く全ての項目で「事業に関する情報提供・PR」の割合が最も高い。

全体では、次いで「特にない・わからない」となっているが、まちづくり事業別にみると傾向が異なる。

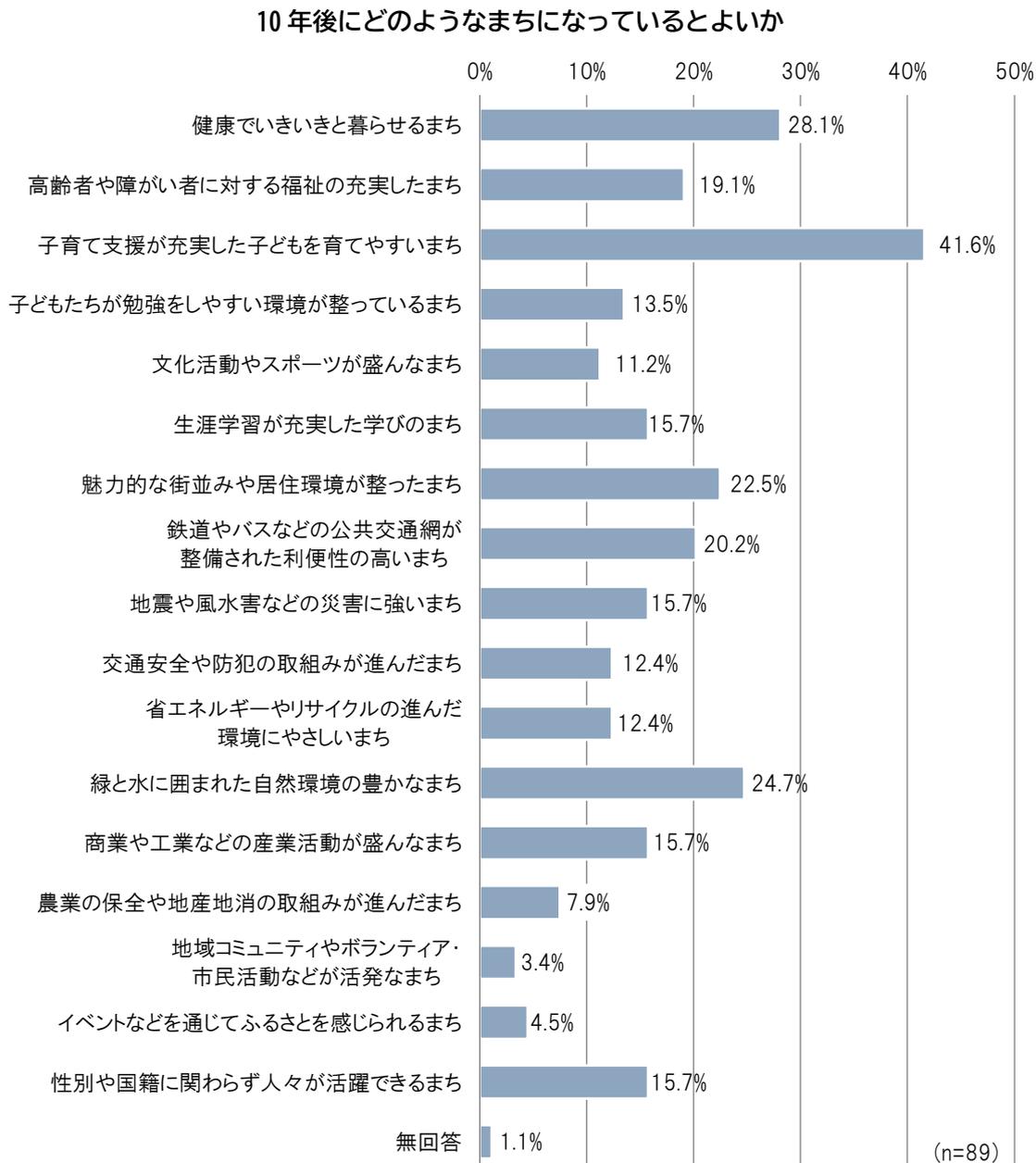
「高齢者・障がい者の雇用」、「リサイクル活動、省エネ活動」では「相談窓口の設置」の割合が次いで高く、「地域活動への協力（清掃活動、イベント参加等）」、「福祉施設への慰問、ボランティア団体・NPO団体等への支援、寄附等」、「教育への協力（児童生徒の事業所見学、学校への講師派遣、施設の開放等）」では「各組織・企業間の交流機会の設置」の割合が次いで高い。

図表 現在取り組んでいるまちづくり事業×まちづくりに参画する場合に必要な市の支援

	合計	まちづくりに参画する場合に必要な市の支援事項								
		相談窓口の設置	事業に関する情報提供・PR	協働事業推進のための指針	各組織・企業間の交流機会の設置	公共施設等の優先的な貸し出し	行政による優遇措置や認定制度など	その他	特にない・わからない	無回答
全体	89 100.0	21 23.6	39 43.8	9 10.1	17 19.1	9 10.1	19 21.3	4 4.5	28 31.5	0 0.0
現在取り組んでいるまちづくり事業	高齢者・障がい者の雇用	16 100.0	7 43.8	11 68.8	4 25.0	2 12.5	2 12.5	4 25.0	2 12.5	2 0.0
	地域活動への協力（清掃活動、イベント参加等）	29 100.0	5 17.2	16 55.2	2 6.9	9 31.0	2 6.9	7 24.1	0 0.0	6 20.7
	リサイクル活動、省エネ活動	24 100.0	8 33.3	11 45.8	2 8.3	5 20.8	1 4.2	5 20.8	2 8.3	6 25.0
	福祉施設への慰問、ボランティア団体・NPO団体等への支援、寄附等	17 100.0	5 29.4	6 35.3	2 11.8	6 35.3	0 0.0	4 23.5	0 0.0	4 23.5
	教育への協力（児童生徒の事業所見学、学校への講師派遣、施設の開放等）	11 100.0	2 18.2	6 54.5	1 9.1	3 27.3	0 0.0	1 9.1	0 0.0	3 27.3
	その他	6 100.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3	0 0.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7
	取り組んでいない	25 100.0	4 16.0	10 40.0	2 8.0	2 8.0	5 20.0	5 20.0	0 0.0	13 52.0

(6) 10年後にどのようなまちになっているとよいか (MA)

「子育て支援が充実した子どもを育てやすいまち」の割合が最も高く41.6%となっている。次いで、「健康でいきいきと暮らせるまち(28.1%)」、「緑と水に囲まれた自然環境の豊かなまち(24.7%)」となっている。



(7) 尾張旭市の将来をイメージする『言葉』や『キャッチフレーズ』(FA)

将来をイメージする『キャッチフレーズ』として記入された回答をみると、暮らしやすさを想起させる回答が多い。

**【住みやすい (5)】**

- ずっと住みたくなる町
- 住みやすい街、住みたい街
- 住みやすい街
- 生活しやすい街
- 住みやすさ、暮らしやすさ

**【子育て世帯に優しい、子育て支援 (1)】**

- 子育て支援の町

**【健康、活力、明朗快活 (4)】**

- 健康で明るく楽しい街作り
- あさぴー(ひまわり)のように明るく元気な町
- 生き生きわたしの町
- 向日葵のような笑顔

**【安全、安心 (2)】**

- 安心、安全に暮らせるまち
- 安心安全なまち

**【緑豊か、自然豊か (5)】**

- 自然がいっぱい ちょっと都会 ちょっと田舎ぐらし
- 緑と水 明るい町 紅茶
- 緑に囲まれた街
- 新緑
- (森林公園の存在も含め) みどりの街、健康環境の街

**【心豊か (2)】**

- 豊かな心の持てる、暮らしのまち
- 心豊かに暮らせる街

**【共生 (2)】**

- 共生 住みよいまち、尾張旭市
- 誰も置き去りにしない。誰もが自分らしく暮らせる。

**【その他 (4)】**

- Creating an eco - friendly city
- のびのび マイペース
- 輝けグローバルアサヒ
- なにかが有るまち (話題性でまちおこし)

(8) 将来のまちづくりに対するご意見等 (FA)

**【みんなで支え合う健康のまちづくり (健康づくり、地域医療福祉、子育て支援、高齢者・障害者福祉) (6)】**

- 「健康の街尾張旭市」とうたいながら、健康野菜等に対する意識の無い対応？
- 介護福祉に対して「健康」をイメージしている市のわりには、介護者にも事業者にも優しくない。かけ離れている事ではないのだから、「健康」をより良い「老後」にもつなげてほしい。ヤングケアラーに対しても把握、取り組みをされては？
- 手厚い福祉、子供や高齢者へのサポートの充実をお願い致します。
- 天候の悪い日でも、子供が楽しく体を動かせる室内公園のような場所がほしいです。利用料は200円までがいいです。
- 福祉の充実した町になってほしいです。
- 未来の尾張旭市を育てる上でも、子供を持つ世帯が移住したくなる制度や補助があればいいと思います。

**【豊かな心と知性を育むまちづくり (教育、生涯学習、文化、スポーツ) (2)】**

- 棒の手などの芸能をもっと活発に発信できる街づくり。
- 人間の心の成長に関する、心理的な知識とコミュニケーションのとり方などもマンガを使い分かりやすく教えていけば、この街はもっと産業の活力が上がり、暮らしやすい治安の良い街になると思います。

**【快適な生活を支えるまちづくり (住環境、交通基盤、水の供給、下水道整備、雨水・河川対策) (2)】**

- あさび一号の増便
- 職場が近く通勤しやすい街

**【安全で安心なまちづくり (防災・減災、消防救急体制、交通安全、防犯対策、消費者の安心) (5)】**

- 安心して暮らせる街になってほしいです。
- 安全、安心が優先されるべきと思う。まず、そこから。
- 警察署の設置
- 市民病院設置
- 「地震や風水害などの災害に強いまち」が一番です。

**【環境と調和したまちづくり (資源循環型社会、地球にやさしい生活、緑・水辺環境、生活衛生環境) (3)】**

- 花桃街道が有名な街づくり。
- 矢田川沿いを毎朝歩きます。チョウゲンポウのつがいがいます。ホンダタヌキがいます。クロイトンボは2年前より少なくなりましたが生息しています。田畑をまとめることも利点がありますが、住宅地のなかにも公園だけでなく生産緑地を残す(作る)ことが、『自然』を創ることに繋がると思います。
- 里山を残す事を教えてほしい。

**【活力あふれるまちづくり (商業、工業、農業の振興、勤労者支援、勤労支援) (11)】**

- シニア世代が、その経験や技術を活かして、生き生きと生活できる街づくり。
- 金融リテラシーを高めるまちづくりをしてほしい。
- 空いてる土地やスペースの有効活用。ベンチャー企業の誘致。税制特化
- 市街化調整区域を減らし、市街化区域を増やすべきだと考えます。農地にはヒートアイラ

ンド現象の抑制効果や治水効果があると言われていますが、尾張旭市において具体的な効果は確認できません。人口増加、産業の創出、税収増を考えれば市街化調整区域を減らすことが有効だと考えます。

- 私は県外から尾張旭に来て長くなりますが、自然があり都会も近く、買い物、病院、郵便局、全てが整っており、とても暮らしやすい町です。魚があまり美味しくないのが、食生活が豊かになるとうれしいです。市内に大きい商業スペースがあると嬉しい。
- 住むためのまちで、必要な収入源として適度な産業のあるまちづくりを目指して頂きたい。
- 住宅の中にカワイイお店がポツポツあり、町全体が明るく健康でオシャレな街であってほしい。
- 出掛けたくなる街にしたい。
- 商業施設や有名スイーツ店等の飲食店が並ぶ一画など、若者世代が集まりやすく子育て世代に優しい優遇があるまちになると栄えると思う。
- 大型の商業施設誘致
- 農業の多面的役割を重視し、産業の活性と環境の保護、教育に活かしてほしい。

### 【人と人がふれあうまちづくり（市民によるまちづくり活動、にぎわい創出、男女共同参画）(3)】

- 図書館、文化会館など駅に隣接しアクセスもいいので、施設やイベント内容を魅力的にし、他市からも足を運んでもらうようにすると、活気が出ると思います。
- 団体各所との連携などは、もっと必要かと思えます
- 尾張旭市ではスーパーなどは隣接する市より魅力があり充実しているの、名古屋市からも多くの買い物客が来ています。そこで、名古屋市とも連携した事業、イベントなども期待しています。

### 【分野横断的なまちづくりと市政運営（開かれた市政、行財政運営、組織・人事マネジメント）(3)】

- 公共施設の公平な利用、これが基本であるが、そうでない事例があるので改善してほしい。
- 市職員が自身の保身や都合で仕事を進めず、住民の立場を重視して物事に取り組んで欲しい。
- 人の多様性を尊重し、社会（行政）に関心のあるまちづくりをして欲しい。正しい行政の知識、例えば国債は借金ではない事や破綻の恐れがない事を知ること。地方行政の予算は、税金と国からの交付金であること。行政や地域活動の役割や仕組みを学んでもらう。これらをマンガなどで子供でも分かるくらいに噛み砕いて教えていくと良いかと思えます。

### 【その他 (3)】

- ご当地ナンバーの導入をぜひご検討ください。尾張小牧ナンバーは名古屋ナンバーに比べて不人気です。また、「尾張旭市」のことを誤って「尾張小牧市」と呼んでしまう人も散見されます。地域的なつながりの乏しい「小牧」の文字がナンバープレートに入っていることは尾張旭市にとってデメリットが多いです。導入要件が緩和されていますので、瀬戸市とともに「尾張」ナンバーの導入を目指しましょう。小牧市を除く尾張小牧ナンバー地域の7市3町とともに、導入を目指すのも良いと思います。
- 社員にも尾張旭市民が多いので、関心があります。
- 新たに緑地や田畑を宅地にどんどんしてしまっているが、50年前に宅地化された所には空き家と高齢者世帯のみになってしまっている。50年後を考えると荒廃した街並みを想像してしまう。

## 2 事業者インタビュー（尾張旭市商工会青年部）

### 2-1 調査の概要

日時	令和4年7月20日（水）午後7時から
場所	商工会館
参加者	尾張旭市商工会青年部役員
聞き手	尾張旭市 山下課長、田中係長、北川主査 MURC 佐々木、河合

### 2-2 調査結果

#### (1) コロナ禍で顕在化した変化・課題

##### ● テレワークについて

※ コロナ禍にテレワークを実施したことのある事業者は1者

- ・政府から出勤7割減の要請があった頃にテレワークを開始した。設計や営業は自宅でノートPCを使って実施できる。現状は出勤の制約を設けていないが、テレワークを選択できるようにしており、在宅勤務を基本としている人もいる。テレワークは実施しやすいため、コロナ収束後も継続していく予定である。（須寄健）

##### ● コロナ禍での新規事業の取り組みについて

コロナ禍に新しい事業は特に行っていない。

#### (2) まちづくり活動への参画について

- ・ボランティア活動を行っているものの、それ以外はやっていない。（行政による）まちづくりイベントがPRされれば参加しようとは思っている。
- ・不動産開発を行う会社であり、街並み形成や居住環境整備、宅地開発、企業誘致などに携わっている。
- ・事業者アンケート結果「10年後にどのようなまちにやっているとよいか」で、農業保全、市民活動、イベントがワースト3となった。青年部ではイベントを開催しているが、市民は望んでいないととらえてよいのか。  
→中学生を対象としたアンケートでは、イベントなどまちのにぎわいに関する意見が上位となっている。
- ・建設会社で道路工事業業をしている。尾張旭市が発注する工事の仕事をやっているが、それぐらいしかない。一方で、青年部の活動を通じて尾張旭市を盛り上げている。夏祭りや市民祭、新たなイベント等で盛り上げていきたい。
- ・子育て世代であるため、10年後のまちづくりについては、自分自身も子育てのことに目が行きがちである。

- ・仕事で公共事業をやっているが、まちづくりについては、その程度しかできていない。
- ・会社としては、何にもしていない。まちづくりについて、これまで何も意識していなかった。反省したい。
- ・現在の総合計画で掲げた目標について、どの程度達成しているのか、教えてもらいたい。  
→全ての目標が達成できている訳ではないが、計画期間は来年度までであるため、それまで達成に向けて取組みたい。
- ・(目標達成で)一番苦勞していることは何か。自分たちでできるようなことであるならば、協力したい。  
→コロナ禍においてコミュニティの問題が大きくなっているが、具体的には自治会加入率がどんどん下がっている。若い方が加入してもらえないため、加入率を上げることは至難の業となっている。
- ・企業として取組んでいることは特にない。しいて言えば、防犯カメラを設置しているため、防犯対策になっているかもしれない。青年部を通じた活動ぐらいしかない。
- ・10年後のまちづくりについて、子どもがいないため、子育てしやすいまちには興味がない。住みやすいまちにしてもらいたい。
- ・会社として取組んでいることはなく、青年部活動を行っているぐらいだ。
- ・10年後のまちづくりについて、市内にキャンプ場などができると嬉しい。たくさんの人が訪れるまちになるといい。
- ・会社として取組んでいることは特にない。サービスステーションを営業しているが、給油に訪れるシルバー人材センターの登録高齢者等に声がけして、コミュニケーションをするように心がけている。
- ・今後のまちづくりの関わり方について、「興味や関心がある内容ならば参加したい」が64%であるが、どこで知ることができるのか。どこかで発信しているのか。  
→広報紙やホームページが情報発信手段になっているが、情報が得られる場が少ないと感じており、興味を持ってもらえるような手法を考えたい。

### (3) 今後10年間で実現が望まれるまちの姿について

- ・企業としての意見をとんでもないピンとこない。青年部活動では、市民の皆さんに喜んでもらえるような活動を行っている。
- ・ライフスタイルが多様化している中で、いろいろな考えを取り入れて見直していかないといけないと思う。人と人とのコミュニケーションに対する考え方が(若い世代で)違うと言われるが、自分たちでもギリギリ(そちら)の世代になっていると感じる。なぜ紙媒体の回覧を使っているのか、といったような話はよく出てくる。10年後のまちを背負っていくのは、今の若い世代なので、そういった世代のことを考えて、いろいろなことを変えていってほしい。
- ・尾張旭市内には開発余地のある土地がないため、仕事をする機会がない。市内は地盤がよく工場や物流施設を誘致するポテンシャルがあると思うが、古くからいる人等、いろいろな意見があって、なかなか産業振興に舵をきれないと感じている。
- ・尾張旭市は特徴がなくていいまちだと思う。市内に買い物や遊びに行くところはないものの、

近隣にあって、また、程よく住みやすい。しかし、それは生まれたときから住んでいるからそう思うのであって、移住してきた人から見ればどう思うかわからない。自治会や青年部のイベントをやっていて感じるのだが、新しく人が入ってきにくいようにも思う。市内に新興住宅地のようなところはなく、転入してくる人は、ところどころに入るため、馴染みにくい人もいると思う。新しく入ってきた人たちの意見を取り入れる仕組みが行政にできるといい。また、自治会に全員加入にすることができないだろうか。

- ・生まれも育ちも尾張旭市であるが、子どもの頃は子ども会活動が盛んで、近所の人は皆顔見知りのような感じであった。しかし、今は横の繋がりが希薄になっている。地域コミュニティが上手く機能している市町村があるならば、そういったものをモデルにして見直しできるといいと思う。
- ・夏祭りの花火大会を復活させてほしいとずっと思っている。
- ・行政の情報発信について、今は紙媒体を見ない。インスタなどを使った方がよいと思う。
- ・尾張旭市では健康都市を掲げているが、(やっていることが)高齢者目線のように思う。もっと目線を下げて、若い人の健康について考えてほしい。例えば、スケボーパークをつくる。蟹江町ではスケボーパークがあり、オリンピック候補選手がでてきている。維摩池公園のシンボルロードを閉鎖しているときにはスケボーをできたが、蟹江町を羨ましく思う。長久手市にはバスケットボールコートがあり、自由に楽しめる。一方、尾張旭市ではフットサルを公園でやっており、専用コートがない。いる。城山球場(体育施設)をネーミングライツ(することで整備)できないだろうか。
- ・バスケをやっているが、市内ではスポーツをやる場所がない。体育館も、名古屋では冷暖房が完備されている。また、市民大会や市長杯などあるものの、周知が十分でない。尾張旭バスケット協会に加入しているため情報を得ることができるが、一般の人には届いていない。
- ・緑を活かしてキャンプ場など遊べる場所ができるとうれしい。
- ・実家のあるところでは、人口が減り、地元の集まりがなくなり、回覧板も回らなくなった。自治会では、地域でお金を集めて街灯を整備したりできるが、若い人たちは、そうしたことを知らない(ため加入しない)。ただ、若い人の人との関わり方は変わってきていると感じていて、マンションで会ったときは挨拶をするものの、スーパーなど外で会ったときには会話をしたがない。
- ・今後、青年部のイベントでは、謎解きイベントを実施したいと考えている。自分自身が子どもを持つ親であるため、子どもたちを喜ばせるためにやっている。また、過去には自分たちの先輩がやってくれたため、それを引き継いでいる。中高生はあまり喜ばない。

### 3 事業者インタビュー（尾張旭市商工会工業部会）

#### 3-1 調査の概要

日時	令和4年9月2日（水）午後7時から
場所	商工会館
参加者	尾張旭市商工会工業部会役員
聞き手	尾張旭市 山下課長、田中係長、北川主査 MURC 河合

#### 3-2 調査結果

##### (1) コロナ禍で顕在化した変化・課題

###### ● テレワークについて

※ 在宅勤務、テレワークの実施状況：4社

- ・生産部門ではテレワークは無理であったが、事務部門ではテレワークを強制的に進めていた。
- ・会社からの在宅勤務の直接的な指示はなかった。尾張旭市は生産工場のため、7割ほどが出勤していた。首都圏は管理部門や営業部門のため、ほとんどが在宅勤務であった。

###### ● コロナ禍での新規事業の取り組みについて

- ・愛知県のメルマガをきっかけに、県事業に応募し、2020年2月よりスタートアップとの連携事業をスタートした。コロナ前から新事業展開を考えており、コロナとタイミングが重なった。
- ・コロナ禍で飛散防止パーティション、足踏み消毒を製品化し、市役所へ寄贈した。足踏み消毒は、市役所寄贈をきっかけに警察署などからの受注につながったが、現在は頭打ちである。パーティションは引き続き需要がある。

##### (2) 社会経済潮流からみた事業課題

- ・電力単価が高騰している。また、同業他社などからは、産廃処理費や資材の仕入れ価格などが1割程度高騰し、利益を圧迫していると聞いている。一方、価格高騰は値上げ交渉ができるタイミングでもあり、知っている限りでは、ほとんどの事業者が値上交渉を行っている。
- ・鋼材の仕入れ価格が上がっている。仕入れ価格が安定していた時は、1年間同じ値段で取引していたが、最近は数ヶ月ごとの交渉となっている。
- ・人材不足の問題がある。ハローワークを通じて、新卒、中途採用を行っているが、就職後、技術を取得した後で転職する者が多く、せっかく人材育成を行っても無駄になることが多い。
- ・少子高齢化が進み、高齢者が増えているが、尾張旭市には火葬場がない。瀬戸市や名古屋市など市外の施設を利用しなければならず、割高となっている。市として事業計画はないと理解しているが、今後の需要を考えると、検討が必要ではないか。

- ・高齢化が進み、空き家も増えてはいるものの、家族が近隣で生活しているため、管理が行き届いている状況。全国の地方都市の中では空き家率は低い状況にある。
- ・尾張旭市は、きれいで豊かなイメージがある。大手企業が市内および周辺に立地し、市民の平均所得が高いことがあげられる。
- ・少子化に伴い、新卒採用が難しくなっている。工業高校では、1クラスに1,000社の募集があるといわれ、学校の先生とのコネクションを活かして、何とか毎年採用枠を確保している。また、大学生はものづくりへの関心が低くなっており、募集しても応募が少ない状況である。また、EV化による事業環境の変化も課題であり、内燃機関からの転換で部品点数が少なくなる中、どのように事業展開を図っていくかが課題である。また、サプライヤーとしての条件に毎年のCO2削減が義務づけられている。努力義務ではなく、サプライヤーとしての必要条件となっており、悩ましい状況となっている。

### (3) まちづくり活動への参画・取組について

- ・月1回、営業所のまわりの清掃活動を実施している。また、企業として電力の安定供給が社会的使命となっており、その状況について説明を定期的に行っている。
- ・地元向けに工場見学会などを開催し、事業について説明・理解をいただいている。また、連合自治会の盆踊りを後援しており、その一部を市より補助いただいている。地元とのコミュニケーション活動を行政として支援いただけると良い。

### (4) 今後10年間で実現が望まれるまちの姿について

- ・健康都市宣言を行っているので、例えば、健康をテーマとした公共施設の活用など、健康に関心のある人たちの中で、尾張旭市が評判になるような取組が求められる。名古屋市の理想的なベッドタウン、住みやすいまちとして、市街化調整区域を市街化編入して活用を図ることが求められる。
- ・地震、台風リスクが低いことが特徴である。万が一の場合でも、家族、仲間の安否が容易に確認できるような、安全・安心なまちになると良い。
- ・高齢者が免許返納したくても、コミュニティバスの利便性が悪く、返納ができない。タクシーチケットなどでフォローはしていただいているが、高齢者の円滑な移動が支援されると良い。
- ・現状の尾張旭市に対して不満が全くないので、今の水準を今後も維持していくことが求められる。
- ・コロナ禍でイベントが減少し、経営が厳しくなっている。企業が継続していけるような支援が行われると良い。

## 4 事業者インタビュー（アサヒ開発株式会社）

### 4-1 調査の概要

日時	令和4年9月1日（木）午後1時30分から
場所	アサヒ開発株式会社
参加者	アサヒ開発株式会社 代表取締役 田島 敬二氏
聞き手	尾張旭市 田中係長、北川主査 MURC 佐々木、吉田

### 4-2 調査結果

#### (1) 尾張旭市の居住地としてのブランド力について

##### ● 周辺市区と比較して人気はあるのか

- ・ブランド力はあまりなく、目玉も無い。
- ・数年前は「住んでみたいまち」として新聞に取り上げられたが、今は長久手市や日進市の方が人気がある。
- ・長久手市は図書館通りに様々な店舗が出たり、ござらっせやI K E Aができたりと、店舗の誘致が盛ん。長久手市は市街化調整区域があり、全地域が住みやすいわけではないが、藤が丘から近いことから、住みやすいまちというブランドになっていて、イメージが良いと思う。
- ・日進市でも区画整理がされ、価値が高くなっている。
- ・もともと長久手市・日進市で土地を探していたお客様が、価格が高いことを理由に、それより安価な尾張旭市に流れてきている印象が強い。
- ・宅地分譲を希望しているお客様は、尾張旭市に所縁の無い方も多い。
- ・ハウスメーカーでは、土地と建物を一緒に提案しているため、長久手市・日進市は予算内におさまらない場合に尾張旭市に誘導されているかもしれない。

##### ● 尾張旭市はどのようなイメージを持たれているか

- ・瀬戸線で栄まで24分で行けることが売りになる。
- ・本数は少ないが藤が丘まではバスもあるし、車でも行きやすく、名古屋市営地下鉄東山線も利用できる。
- ・高速道路のインターが近く、名古屋第二環状自動車道に守山スマートインターチェンジができたため、非常に便利だと思う。
- ・長久手市にはアピタ、守山区にはコストコがあるため、生活に便利。
- ・大きな施設の近くでは渋滞が起きるため、近所に住むにはよくないが、尾張旭市ではそういった渋滞は起きない。先の施設までちょうど良い距離感にあるため便利だ。

##### ● 尾張旭市の物件の売り込む際に、周辺市区と比較して弱みは何か

- ・県外の人に「尾張旭市」と言っても分からず、知名度が低い。
- ・尾張旭市は不便なところは少ない。

- ・大きな企業が少ないため、税金の負担が大きい。
- ・瀬戸市は焼き物の製造に関連してダンプカーが通って、埃っぽいイメージがある。それが原因で昔は矢田川が汚れているときもあった。そういったイメージを払拭しようと、瀬戸市は市役所が積極的に移住促進に取り組んでおり、不動産の会合等でも良くパンフレットをもらう。

## (2) 尾張旭市の住宅需給について

### ● 周辺市区と比較して土地・住宅の供給量は多いか

- ・土地はある程度は流通している。
- ・まちづくり自体を市がやっているというよりは、区画整理がまちを作っているという印象が強い。
- ・保留地は北原山にあるが、価格が高く区画が大きい。第1種住居地域であるため、事業所等は立地できず、大きさと用途が合っていない。住宅であれば40坪程度と細かくしたほうが良い。
- ・事業系の需要は、景気が良くないため、買うより借りる方が多い。土地購入と建物建設の両方に資金が必要となり、融資を受ける必要が出てくるため、事業用定期借地が浸透していることもあり、借りることが多い。

### ● どのような物件（戸建て分譲・マンション・賃貸）が供給されるか

- ・相続対策でアパートやマンションを運用したい人がいる。
- ・賃貸マンションは、需要のある場所に建てれば良いが、100%埋まるわけではないので、上手く回っていないことが多い。
- ・持ち家需要の方が多いが、賃貸需要もある。
- ・賃貸は瀬戸線沿線であれば需要があると思う。

### ● 周辺市区と比較して土地・住宅の需要量は多いか

- ・土地の出物は数年前と比べて下がっている。
- ・昨年、名古屋市を中心地が上がっていても、尾張旭市は安定的で上下動がないといわれていたが、去年から単発的に良い土地が出てくると競争で購入されてしまい、値段が上がってしまう。
- ・利便性の高い大きい土地が売れて、日当たり関係なしに土地を小さく分けて、儲けようという考え方がある。駅が近いなどの利便性があるから狭小地でも予算に合わせて購入されている。
- ・瀬戸街道沿いは本来商業地で、店舗や事業所が立地していたが、今は大道路沿いよりも中地の方が高いという逆転現象が起きている。景気が悪く事業者が買わないため、ニーズが少なく大通り沿いの土地が安くなっている。大通り沿いの土地も細かくして宅地として売り出してしまっているので、今後景気が回復したときに、ある程度まとまった土地を事業者が探したときに適地がなくなってしまう。まちづくりとしてはある程度規制をしていかないといけないのではないか。
- ・都市計画の専門家に話を聞いた時に、尾張旭市はドーナツ型だと言われた。市の中央部が市

街化調整区域で田んぼが広がっている。

- ・大村知事が就任したときに、尾張旭市は調整区域の比率は悪くないと話していた。
- ・生産緑地は多くはないが、解除される方もいて、宅地になっているところもある。

● どのような物件の需要が多いのか

- ・住宅は3,500～4,000万円程度が相場。概ね1,500万が土地、2,000万が建物の割合。
- ・土地の広さは、35坪～40坪で探されている方が多い。
- ・名古屋市との市境で、あまり価格等は変わらない。
- ・今でも、名古屋市の敬老パスのサービスを受けたいために、守山区を選ぶ人もいる。
- ・対象者層の購入希望金額に合わせて、土地も家も小さくして売り出している。
- ・マンションを建てられるような大きな土地は少なく、旭前の駅前でマンションが建ったが、完売しておらず、数年たった今でも販売している。
- ・大きな土地を、半分マンション（長谷工コーポレーション）、半分戸建て（サーラ住宅）として売り出したとき、戸建ての方が先に売れた。
- ・昔は、まずはマンションを買って、そのマンションを下取りして戸建てを買う流れがあったが、今はマンションも戸建てでも変わらなくなってきたので、はじめから戸建てを買う人が多い。

(3) **尾張旭市の住宅購入者（賃貸新規契約者）について**

- ・駐車場は2台が標準的。車が自宅に1台しかなくても、来客用や将来の子ども用に2台分の駐車場を用意される。2台分の駐車場があっても、3台目を別の場所に借りている家庭も多い。
- ・駐車場2台が必要条件になる。売るときに1台だと需要が少なくなってしまう。
- ・物件を探している人の年齢層はまちまちだが、30～40代が多い印象。少し前は団塊ジュニアの世代が多かった。稀に2世帯の需要もあるが、核家族が多い。3世代は少ない。
- ・瀬戸線で通勤する人は、栄まで行く人と、大曾根で中央線に乗り換える人が多い。

(4) **将来のまちづくりへの期待について**

- ・森林公園はあるが、他にも目玉となる場所、市民が集まれる場所が欲しい。例えばござらっせや映画館のような場所。
- ・再開発している三郷に良い商業施設ができて魅力向上に繋がると良い。
- ・森林公園は子どもと遊びに行く場所としてプラスの存在だが、訪れるには車が必要である。三郷駅から歩いていく人は少なく、巡回バス（あさびーバス）も通っているが、ルートが限られ本数が少ない。
- ・森林公園内にはステージがあり、年に数回音楽祭をやっている。令和天皇が即位後初の公務で訪れた植樹祭の舞台はまだ残っている。
- ・森林公園があるから家を買うという人はなかなかおらず、そこまでの存在ではない。
- ・尾張旭市といえばここ」「ここに行けば〇〇がある」といった目立つものがあると良い。施設に

限らないが、何かあると良い。

- ・住みよいけど楽しさがないので、楽しさがあると良い。

## 5 事業者インタビュー（株式会社東興不動産）

### 5-1 調査の概要

日時	令和4年9月1日（木）午後3時から
場所	株式会社東興不動産
参加者	株式会社東興不動産 代表取締役 伊藤 智成氏
聞き手	尾張旭市 田中係長、北川主査 MURC 佐々木、吉田

### 5-2 調査結果

#### (1) 尾張旭市の居住地としてのブランド力について

##### ● 周辺市区と比較して人気はあるのか

- ・事業者としての不満も、住民としての不満もあるが、忖度なく話しておく。
- ・ブランド力は、特筆すべきものはない。
- ・名古屋市の横で、都会過ぎず、田舎過ぎず、住むには良い。
- ・欲しいものがそこまでの手間をかけずに手に入れられる。
- ・健康都市について、以前いろいろな意味の健康だと説明されたが、財務内容的に健康とは言えない。収入が固定資産税に偏りすぎている。法人税を増やすための誘致をこれまで怠ってきたので、全然伸びていない。一般市民は、そのことを知らずに入ってくるので、住んでみて、意外と尾張旭市って貧乏だなと言う印象を持つことになる。入る時と住んだ後のギャップがある。
- ・道路がデコボコで直してほしいと要望を伝えると、お金が無いので順番にしか直せませんと言われる。個別の要望が来ているということは、直すべきところであるため、回りまわって、財政的にも良い。なかなか直してもらえないと、貧乏だと感じる。このような突発的なものへの対応がしづらい。
- ・全国的な人口減少に伴い、人口が減少するのは理解できるが、人口を横ばいにするための総合計画を作ってほしい。実際に横ばいにならなくても良くて、その目標に向けての活動を行うことが大切だと思っている。
- ・市長や市役所から県への働き掛けも積極的にして欲しい。何もしないということだけはやめて欲しい。
- ・市民も、何か働きかけが出来るような人を増やしたい。

##### ● 尾張旭市の物件を売り込むときに、何がセールストークとなっているか

- ・教育委員をしているが、教育に関する予算を取れるようお願いしている。尾張旭市に住み続ける子どもを育て、ブランド力を養うための教育としてとらえており、短期的なブランド力ではなく、長期的なブランド力を意識して総合計画を作ってほしい。
- ・市内に小学校は9校、中学校は3校、合計12校あり、施設更新を1年ごとに実施している

が、在学中に校舎が綺麗にならないまま卒業する子どもが多くいる。

- ・現在、低金利であるため、借入れをしてでも、1年で3校程度の施設更新に着手するように要望を出している。
- ・市民は自分の校区にしか目が向かないため、3校同時に着手することで、市として教育に力を入れているという印象が強くなる。この学校は来年リニューアルされるとPR出来るようになる。転入される方は、保育園や学校が最初の心配事となるので、PRしやすい。
- ・保育園は充実しており、待機児童は少ないと感じている。しかし、もっと人口が増えれば分からない。
- ・5年ほど前、尾張旭市に警察署を誘致する会として署名活動をし、幹部交番ができることになったが、他の警察署の建替えなどもあり、なかなか実現は難しいと言われており、結局新設されなかった。しかし、同時期に新設の警察署誘致活動をしていた大府市は、新設の警察署が出来ることになった。大府市と尾張旭市は同じような位置づけであるが、大府市は人口が増加している。市民の活動としても、市の取組みとしても、根気が足りていなかったため、潔く負けを認め、大府市がどのようにやってきたのかを学び、次の展開を考える必要がある。大府市にできて尾張旭市にできないことはない。
- ・市で区画整理をしており、救急車両が通れるようになっている。尾張旭市はコンパクトで、どこでも救急車が7分で着くのはウリ。
- ・稲葉地区は調整区域で規制がかかっており、田んぼしかないのも、扱いを考えなければならない。豪雨などの災害の際は、田んぼがあることは有効だが、緑は市の真ん中にある必要はない。大きなブレーキになっている。第六次計画に稲葉地区を位置づけて欲しい。
- ・その一角に三菱電機の新工場を誘致できた。企業を誘致すると、そのうちの何割かが市内に住んでくれるため、大規模な企業誘致は重要。
- ・市役所と地域が一丸となった活動が誘致に繋がったが、足掛け7年程度かかっている。行政に働きかけて1年半程度工事着手に時間がかかるため、それではスピード感がない。その間に企業に逃げられてしまう。県や国に働きかけて、1か月や2か月でも早められるようにしなければいけない。
- ・市民の声を聞くことも重要だが、反対意見への対応に時間をかけるのではなく、絶対的な目標のために突き進んで欲しい。
- ・公園の清掃は町内会や自治会で担っており（お金は市から町内会や自治会に払っている）、自分たちで綺麗にすることは良いことだと思っている。町内会の加入率が下がっており、転入の際にもう一押し声掛けをしてほしい。ごみ収集の場所は、町内会で提供しているが、町内会に加入していない人もごみを出している。それは矛盾していないだろうか。
- ・物件を買うときに、土地を買うのはもちろん、周辺の環境も含めて買うのだと伝えている。だから、町内会にも入ったほうが良いと伝え、契約書にも町内会加入促進について記載している。加入率をのばして、共助をのばしたい。
- ・尾張旭市は災害リスクが少ないことは良いことだが、そのため危機感が少なく、共助の意識が低い。
- ・もう少し尾張旭市の魅力を上げる必要がある。尾張旭市には、上場企業が2つしかない。上場

企業だけが良いわけではないが、大学生で企業調査をしたとき等に、魅力として捉えづらい。

## (2) 尾張旭市の住宅需給について

### ● 周辺市区と比較して土地・住宅の供給量は多いか

- ・人気があればあるほど土地は出てこない。経済の需給バランスとして一般的。
- ・個人的に区画整理制度はやめた方が良いと思っている。
- ・名古屋市の敬老パス（今は年間5,000円払う必要があるが）と同様の制度を尾張旭市でも望まれている。

### ● どのような物件（戸建て分譲・マンション・賃貸）が供給されるか

- ・尾張旭市は賃貸の需要は少ない。
- ・今から作るマンションは駅から3分以内を目指すことが多い。三郷の再開発は直結になる。
- ・尾張旭駅の北側に、いかに魅力のある店舗を立地させるか、活用の仕方を検討しなければならない。駐車場が多いだけの状態になっている。
- ・平子北の土地を名古屋市から3億円で買ったが、10年たって出来たのはグラウンドで、活用が充分に出来ていない。活用できるように県や国と調整するなり、貸し出すなりしないといけない。
- ・三郷の再開発の話は30年以上前からある。当時、三郷市場の地主が市に売って、今駐輪場になっている。ようやく開発が進んでいるが、遅すぎる。
- ・役所は、慎重にならなければいけないし、計画を作ることも重要だが、計画に縛られすぎて、また、市民の意見を聞きすぎて、スピード感を失ってはいけない。
- ・市内の地権者は、開発等に意欲的ではない。地権者もだが、民だけではできないことはやはり市役所のサポートが必要となるため、一丸となる必要がある。
- ・市が意欲的にやって、国や県に働きかけるなどの気概がほしい。
- ・尾張旭は、昔は裕福なまちで、人口も名古屋市から流入してくるというイメージがあったため、危機感が弱い。
- ・瀬戸線は、栄までではなく、名古屋駅までつながってほしいという夢を持っている。もしつながれば、瀬戸市や守山区も含め、ブランド力がものすごく高まる。
- ・県の消防学校が老朽化で豊山に移転する。移転前の土地は県の土地で、空き空間ができるため、市から県に働きかけてこういった活用をすべきか意見を伝えて欲しいと思う。
- ・一段魅力を上げていきたい。そうすれば思いのある人も集まるだろうし、長久手に人気をとられているので、巻き返していけるはず。

## (3) 尾張旭市の住宅購入者（賃貸新規契約者）について

- ・転入者は圧倒的にサラリーマンが多い。
- ・通勤は意外と車で良いという印象。電車を使うのは、子どもが高校生になった時を想定されている方が多い。
- ・駐車場は2台分が当たり前。

- ・昔は戸建てなら4LDKで駐車場2台だったが、最近は戸建てでも駐車場1台で、3LDKで良いという人が増えている。子どもは一人だという人が増えている。

#### (4) 将来のまちづくりへの期待について

- ・市として、子どもを増やせる取り組みが必要。
- ・高所得者を増やすためには、補助の所得制限を撤廃することが有効。額が多い必要はなくて、1人月5,000円でももらえると、高所得者が集まってくる。
- ・瀬戸市は積極的に居住促進のパンフレットを作成・配布している。新たに事業を始めようとする人に対する助成金もある。人口減が始まってから始めたから、難しい。
- ・尾張旭市は、人口減が始まる前に、居住促進を始めるべきだ。このような取り組みは、何年か時間をかけて取り組んで良い。
- ・近隣の市町と情報交換をして、良いところは盗んでいけると良い。
- ・尾張旭市は道路が整備されており、交通渋滞も少ないことは魅力。
- ・尾張旭市に本社を置きたいと思う企業が増えれば、魅力が増す。
- ・尾張旭市は良いところもダメなところもなさすぎる。みんなが甘えてしまっている。
- ・困っている人が少なく、現状維持を求める人が多い。気づいた時にどん底では遅いので、市役所には市民をいい方へ誘導してほしい。
- ・森林公園の天皇陛下が来たこと、植樹祭をもっと活用できるはず。